

グリーンだよりで地震被害に遭遇!

第4回シリーズ高層住宅における地震時の被害想定訓練

マンションにお住まいのあなた!もしも地震が起きた場合、あなたの生活はこうなるかもしれません。まずは被災時の生活を維持する上で、重要な要素をイメージするために一定の条件のもとで想定をしたものです。なお、ここで想定している復旧の日時、順序などはあくまでも仮想であり、このとおりに進むものではありませんのでご了承ください。

【前回までのあらすじ】

12月10日(木)19時、加古川市北部、山崎断層帯主部を震源地とするM7.7の地震が発生。加古川市中心部では震度6弱を観測した。地震の揺れによってライフラインがストップした。

地震発生から3日目のシナリオ ~最終回~

12月12日(土)

1. エレベータの復旧

エレベータ保守会社の保守員が来てエレベータが動くようになった。これで上層階の人たちもひと安心だが、まだまだ余震は続いているので本当に乗っても大丈夫なのか不安だ。



2. ライフラインの一部復旧

水道がまだ止まったままなので、受水槽に残っていた水も飲料水用として利用できることになった。

また、トイレなどの生活用水は防災井戸の水を利用することになっている。ただし、一部排水管に問題が生じているためトイレ等が使えない住戸があるようだ。

3. ガスの代用

ガスは『安全が確認できるまでもう少し時間が必要』との情報があり、カセットコンロ、ホットプレートや電子レンジ等で代用する。風呂は入浴できるほどの水がまだ確保できないのでダメだが、体を拭くお湯は電子レンジ・電気ポットでも沸かせるので少しは安心だ。

4. ゴミ処理・汚物処理ルール

ゴミはできるだけ自宅で保管するように決められている。簡易トイレの汚物や生ゴミ等衛生上分別が必要なものは、ゴミ集積所に予め決められた場所に仕分けをして出すことになっている。しかし、ルールを守らない人や動物に荒らされたりして困っているようだ。

被害想定訓練終了

4回にわたって被害想定訓練をグリーンだよりで掲載してきました。しかし、本当にこんなにスムーズに行くことはまずありえないと思ってください。普段でさえ、ルールを守らず、自分勝手な主張や行動をする人たちが多くいます。このような人も含めて復興へ進まなければなりません。どの防災マニュアルにも記載されていない

対応をしなければならない場面が、潜んでいることを知っておかなければなりません。そのためにも、日頃から地域でのコミュニケーションをしっかりとっておく必要もあります。

阪神淡路大震災から15年、この間に国内はもちろん、世界各地で大きな災害が起きるたびに、メディアでは特集記事や番組がくり返し報道されます。今では本屋に行けば、防災マニュアルやサバイバルブックがたくさん並び、被災地の恐ろしい映像を見たり聞いたりするたびに、それらの本を手にするかもしれません。でも、そこに書かれてあることは、すべての災害の表面的な部分でしかないのです。「非常食と飲料水」「簡易トイレ」「サバイバルグッズ」等、確かに用意しておくに越したことはないでしょうが、それがすべてではないと思うのです。物の備えよりももっと大切なことがあるのではないのでしょうか?



そこで「明日起こるかもしれない災害」に備えて知らなければならないこととは何なのでしょう?いざというときに本当に必要な物は何でしょうか?家族分の備蓄だけではない大切な備えとは何でしょうか?それらを知ることが本当は大切ではないのだろうかと思うのです。

たとえば、震度7発生の瞬間、人間は何が頭に浮かぶのか?真っ先に何をするのか?人を押し分け自分だけ助かろうとするのか?助かったあと、どんな気持ちで生活するのか?大切な人を失ったとき何を思うのか?

このような被災後の明と暗の部分の私たちは想定し数多くの教訓から学んでおかなければならないのです。

そこで、みなさんにお尋ねいたします。1995年、阪神淡路大震災が起きる前日の16日に、「明日17日に時間は判らないが日本のどこかで間違いなく巨大地震が発生する」と聞いたのなら、あなたは何をしましたでしょうか?

1995年当時の知識ではなく、2010年のあなたが持っている防災知識や阪神淡路大震災やその後の災害による教訓を基に考えてみてください。そうすれば、次に起こる大災害時には「死なない対策」「大切なものを失わない対策」ができることでしょう。そう!防災は本当は簡単なのです。**あなたの大切な人を守るためにできることから始めましょう。**



グリーンシティ防災会は、今年も「楽しく防災活動をやろう」をコンセプトに、防災・減災を推進しながら、次の災害に負けない『**闘災!**』を掲げて頑張りますので、皆様のご協力ご支援をよろしくお願ひします。